

水産海洋基礎（シラバス）

沖縄水産高等学校

科目名	単位数	標準単位数	対象学科・コース・類型・系列	対象学年・組	必修・選択	使用する教科書
水産海洋基礎	4	4	海洋技術科	1年	必修	海文堂出版「水産海洋基礎」
特記事項	座学：2単位 実習：2単位					
科目目標	水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 (1) 水産業や海洋関連産業の国民生活における社会的意義や役割などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【知識及び技術】 (2) 水産業や海洋関連産業全体を広い視野で捉え課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【思考力・判断力・表現力等】 (3) 持続可能な水産業や海洋関連産業の構築を目指して自ら学び、地域の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】					
評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現		主体的に取り組む態度		
	船舶の安全かつ適切な航海について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な航海に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。		船舶の安全かつ適切な航海や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。		

年間指導計画表

月	予定時数	実施時数	指導項目	指導内容（教科書）	評価の観点			評価規準・評価方法			振り返り
					知	思	態	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
4	6	(1) 海のあらし ア 日本の海、世界の海	・河川、湖沼など陸水も含め、海洋資源や物資の輸送等、海の人類への貢献や役割の具体例について指導する。 【水産海洋基礎P1~4】 ・日本及び世界の海について、海流が気候や気象に及ぼす影響及び生命の維持など、海と人間生活との関わりの基礎的な事項を指導する。 【水産海洋基礎P4~9】 ・基本的な海洋関連法規を含めた国際協定などについて、偉人の例も含めながら、概要を指導する。（水産海洋基礎P9~12）	○	○	○	・海洋資源や物資の輸送、海の人類への貢献や役割、国際協定について基礎的な内容を理解している。 ・海流が気候や気象に及ぼす影響、生命の維持について基礎的な内容を理解している。 ■小テスト	・海洋資源や物資の輸送、海の人類への貢献や役割、国際協定についての課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 ・海流が気候や気象に及ぼす影響、生命の維持についての課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 ■話し合い・発表、論述・レポート、ワークシート	・海洋資源や物資の輸送、海の人類への貢献や役割、国際協定について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・海流が気候や気象に及ぼす影響、生命の維持について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ■発言・行動観察、自己評価シート、ワークシート	※年度末の PDCAサイクルのための 点検記入欄	
	6	(3) 基礎実習 隊列訓練 マナー指導	海、水産物及び船舶に関する基礎的な知識と技術を習得させると共に、水産や海洋への興味・関心を高め、集団行動を通して規律や規範意識などの涵養を指導する。 ・様々な隊列の仕方、品呼及び人数確認法を指導する。 ・入退室時のあいさつの仕方などを指導する。	○	○	○	水産業や海洋関連産業に必要な基礎的な技術を習得している。	海上での安全確保のための課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上を中心とする集団行動を通して自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
5	6	(1) 海のあらし イ 海と食生活・文化・社会	・海と人間生活の関わりや歴史からなる海洋文化、日本人の水産物を中心とする特徴的な和食の文化、水産物に含まれるタンパク質や有効成分が食生活に果たす意義について理解できるように指導する。（水産海洋基礎P14~22） ・四方を海に囲まれ、豊富な水産物をタンパク質供給源としてきた魚食文化をもつ我が国の食生活及び漁村の果たす役割の重要性や、海と人間の古来の関わり全体像を概観できるように指導する。（水産海洋基礎P22~23）	○	○	○	・海洋文化、日本人の水産物中心の特徴的な和食の文化、水産物に含まれる有効成分が食生活に果たす意義について理解している。 ・水産物をタンパク質供給源としてきた魚食文化や漁村の果たす役割の重要性や、海と人間の古来の関わりについての課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 ■小テスト	・海洋文化、日本人の水産物中心の特徴的な和食の文化、水産物に含まれる有効成分が食生活に果たす意義について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・水産物をタンパク質供給源としてきた魚食文化や漁村の果たす役割の重要性や、海と人間の古来の関わりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ■発言・行動観察、ノート ■ワークシート			
	6	(3) 基礎実習 救命救命法 遠泳実習 スキューバダイビング	海上において身体を安全に処する能力を養うと共に強健な心身の発達を促し、海に対する理解と関心を深めることができるよう指導する。 ・遠泳実習では平泳ぎを中心に立ち泳ぎや浮き身法などを指導する。 ・スキューバダイビングでは機材の使用法や基本的技術を指導する。	○	○	○	水産業や海洋関連産業に必要な基礎的な技術を習得している。	海上での安全確保のための課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上を中心とする集団行動を通して自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
6	6	(1) 海のあらし ウ 海と環境 エ 海と生物	・海洋環境の概要や役割及び保全と管理について、河川などの陸水も含め、基礎的な内容について理解できるよう指導する。 【水産海洋基礎P25~28】 ・魚介類の飼育や観察などの基礎的な内容を扱う。また、継続的かつ体系的に採集した生物の飼育や観察などの体験的な学習を通して、生態系や生息環境など海や陸水の生物の特性について理解できるように指導するとともに、生物多様性によって支えられる生態系サービスの概要についても触れる。 【水産海洋基礎P30~35】	○	○	○	・海洋環境の概要や役割及び保全と管理について、河川などの陸水も含め、基礎的な内容についての課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 ・魚介類の飼育や観察などの基礎的な内容を理解している。また、生態系や生息環境など海や陸水の生物の特性や、生態系サービスの概要について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ■小テスト	・海洋環境の概要や役割及び保全と管理について、河川などの陸水も含め、基礎的な内容についての課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。 ・魚介類の飼育や観察などの基礎的な内容、生態系や生息環境など海や陸水の生物の特性や、生態系サービスの概要について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ■話し合い・発表			
	6	(3) 基礎実習 遠泳実習 スキューバダイビング	海上において身体を安全に処する能力を養うと共に強健な心身の発達を促し、海に対する理解と関心を深めることができるよう指導する。 ・遠泳実習では平泳ぎを中心に立ち泳ぎや浮き身法などを指導する。 ・スキューバダイビングでは機材の使用法や基本的技術を指導する。	○	○	○	水産業や海洋関連産業に必要な基礎的な技術を習得している。	海上での安全確保のための課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上を中心とする集団行動を通して自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		

